



鳥羽市は「多様な社会を生き抜く、知性・感性・理性にあふれた健康な市民の育成」を目標としています。

# とばし教育委員会 だより

2021. 9. 1 第22号



## 三重とこわか国体・三重とこわか大会のシンボルとなる炬火の採火イベントを開催

6月14日から7月21日にかけて、市内7小学校で三重とこわか国体・三重とこわか大会のシンボルとなる炬火の採火イベントを行いました。

梅雨時期と重なったこともあり、湿気の影響で火を起すのに苦戦する子どもたちの姿もありましたが、各校の子どもたちはマイギリを使用して夢中で火を起こし、大会のシンボルとなる大切な火を採火することができました。

# 令和3年度 教育予算の概要

第2次鳥羽市教育ビジョンに基づく、令和3年度の鳥羽市教育委員会の主な事業や取り組みについてご紹介します。

## しっかり学ぶ子どもを育てる

### ○GIGAスクール構想に伴う関連事業 5,843千円

ICTの活用により全ての子どもたちの学びを保障できる環境を実現するために、学習支援ソフトの導入やデジタル教材の活用、教職員の研修を行います。また、タブレット端末に関する運用をサポートするためのヘルプデスクの委託やインターネットの有害サイト等への閲覧規制など、セキュリティ対策を実施します。



### ○外国人英語指導業務委託事業 13,238千円

英語を母語とする専任英語指導助手（ALT）を幼稚園・各小中学校に配置し、園児・児童生徒と触れ合うことで、生きた外国語や外国文化・生活に触れる機会を提供し、コミュニケーション力の向上と国際感覚の育成を図ります。

## 子どもの未来の礎となる鳥羽ならではの教育の推進

### ○学校給食運営事業（鳥羽が好きふるさと給食） 479千円

鳥羽でとれる新鮮な食材を活用し、生産者の思いを伝えるとともに、食を通して郷土愛を育む「鳥羽が好きふるさと給食」を年2回実施します。



### ○活力ある学校づくり事業 2,650千円

各小中学校において、児童生徒の活力を引き出す鳥羽の特色を生かした体験学習や、海の博物館、新水産研究所などを活用し、児童生徒が海洋教育を学ぶための機会の創出を行います。

### ○英語検定チャレンジ事業 1,000千円

鳥羽の将来を担う児童生徒の英語によるコミュニケーション力の向上と国際感覚の育成を図るため、英語検定受験を通して英語に慣れ親しみ、意欲、関心を高めます。小学6年生と中学2年生は全員、中学1年生と中学3年生は希望者が受験します。

## 地域・家庭とともにある園・学校づくり

### ○スクールバス購入（2台） 15,466千円

鳥羽市小中学校統合計画（令和3年度～令和12年度）に基づく、市内小中学校の適正規模・適正配置を推進します。令和4年4月の鳥羽東中学校と長岡中学校の円滑な学校統合に向け、スクールバスの購入など通学条件の整備等を行います。



## 生涯学習やスポーツの推進

### ○博物館運営事業 10,793千円

指定管理者制度の活用による「海の博物館」の運営に取り組むほか、漁村文化や漁法を紹介する展示パネルの製作や海洋関係の専門書籍の整理等を実施します。

### ○友好都市提携事業 1,610千円

三田市との「友好都市提携」から10周年を迎えるため、両市を繋ぐ戦国大名「九鬼氏」をテーマにしたシンポジウムを開催します。



### ○国民体育大会事業 42,314千円

本年9月に開催される「三重とこわか国体」のフェンシング競技の運営に携わる実行委員会に対して、会場設営や各種イベントの開催などに必要な費用を補助します。

### ○東京2020オリパラ推進事業 1,566千円

聖火リレーイベントを実施するほか、本市出身の選手がオリンピックに出場する際の応援体制を確立します。



鳥羽市・三田市友好都市提携  
10周年記念シンポジウム

戦国を駆け抜けた九鬼水軍～明らかになってきた九鬼氏の実像～を開催。（事前申込有、入場無料）  
とき 10月9日（土）13:30～16:30、会場 鳥羽市立体育館サブアリーナ  
詳しくは教育委員会生涯学習課（TEL0599-25-1268）まで  
※新型コロナウイルスの感染状況等により、内容の一部変更や事業を中止とする場合があります。

市民みんなで力を合わせ、鳥羽の教育を高めていきましょう。さまざまな分野の方にその熱い思いを語っていただきます。今回は、鳥羽市フェンシング協会 理事長の登場です。さあどうぞ！



すずき みつる  
鈴木 満さん

愛知県名古屋生まれ、愛知工業大学卒業後、昭和50年に三重県庁に就職し、平成25年に県を退職。平成7年から鳥羽市フェンシング協会理事長に就任。現在に至る。

## フェンシングの夢をつなぐ オリンピック選手 山田優

鳥羽市フェンシング協会は1995年2月に鳥羽でジュニア育成を目的に発足され、26年の間に多くの子どもたちが巣立っていきました。

最初の頃は、子どもたちが小学生から中学生に成長する中で、フェンシングを続けることの難しさを感じ、このまま継続できるのが不安でしたが、活動を続けるうちに徐々に中学生になっても継続する子どもたちが増えてきました。現在では、海外経験を積み世界大会に出場するなど、ジャパンを背負う選手を6名輩出することができ、フェンシングにおいて、三重県鳥羽市の名前を全国的に広めることができました。

成果が表れた要因として、鳥羽のジュニアと鳥羽高等学校との連携が大きく、フェンシング経験者で、国内でも優秀な選手が鳥羽高等学校の教員として採用されたことから、フェンシングを続ける子どもたちが鳥羽高等学校へ入学するようになりました。

山田あゆみ選手が高校で女子エペ2位となったことに加え、山田優選手が高校の全国選抜団体で男子フルレ優勝・インターハイ男子フルレ団体3位となったほか、個人エペで1年生のときに3位、2年生・3年生においては2連覇の快挙を成し遂げるなど、日本トップレベルへ

と駆け上がっていました。

幼かった小学生の頃の山田優選手が、中学生の頃にフルレからエペに種目を変更してからは、すぐたくましくなり、見違えるほどすごい選手に変貌していきました。大学時代には日本人初のエペ種目で世界ジュニア金メダリストとなり、2019年から2020年3月に世界グランプリで優勝したことから、世界ランキング2位まで上り詰め、日本のエースとして風格が出てきました。東京2020オリンピックのフェンシング男子エペ団体では日本フェンシング史上初の金メダルを獲得し、私の想像以上の選手となりました。

日本人初の偉業は、ジュニアの子どもたちの刺激となり、やる気を引き起こし、全国中学生大会・全国小学生大会の県内予選を勝ち抜くなど結果につながっており、フェンシング指導者として大変喜ばしいことです。

パリ2024オリンピックで、自分の子どもにお父さんの戦っている姿を見せたいと山田優選手が言っていました。次のオリンピックも出場し、是非、日本人の目標となっていたら、更には、第2の山田優選手が出ることを期待しております。がんばれ！山田優選手！

## 海洋教育

## 鳥羽の海に親しみ海を知る

### 長岡中学校と

### 鳥羽東中学校の合同臨海実習

鳥羽の子どもたちが海とそれに繋がる環境を大切に、海から受ける恵みや生業に誇りを持つようになつてほしいという願いから、鳥羽市では海洋教育を推進しています。6月10日(木)に、長岡中学校と鳥羽東中学校、それぞれの2年生あわせて90人ほどが、鏡浦の小白浜および海の博物館にて、三重大学や市水産研究所の先生の指導の下、合同臨海実習を行いました。実習の1週間前にも鳥羽東中学校にて両校の生徒が事前学習として、観察キット作成等の準備を行いました。この実習の目的は、地元の海に親しみ、地元の海の生態や自然について理解を深めることと、学習を通して2校の交流を深めることです。実習では、アマモの生態(なかまのふやし方、体のつくり、生育するための環境等)について学び、アマモ場に生息する動物を採集、分類する体験を通して、多様な生物がくらすアマモ場の役割について考えました。

これまでも学校独自で臨海実習を行ってきましたが、今回初めて2校合同での交流学習の機会となりました。令和4年4月の学校統合に向けて、両校は今後もオンライン会議や学習、部活動において、交流を深めていく予定です。



会社活動で毎日をおもしろく

鳥羽小学校

鳥羽小学校6年生では、係活動でみんなのためにやる仕事を行い、会社活動でみんなを楽しませる活動を行っています。会社活動については、教室にこんな掲示をしています。

鳥羽小学校6年生 会社とは…

- ・なくても困らないけど、あるとクラスがもっと楽しくなる仕事
- ・なくても困らないけど、あるとクラスがもっと幸せになる仕事
- ・なくても困らないけど、あるとクラスがもっと学級目標に近づく仕事

子どもたちがそれぞれに社長になり、社名を決め、社員を募集し、企画書を提出して会社活動を始めます。この活動を始めて3年、色々な会社がありました。お笑いを提供する鈴木興行、希望する色でミサンガを作ってくれる会社、誕生日にカードでお祝いをする会社や家にあるものを持ち寄って交換するフリーマーケット会社。給食の時間を楽しくする動画会社。クイズや迷路を作って掲示する会社やイラスト会社等々。アイデアは広がり、子どもたちが作ったもので6年生教室の掲示板は賑やかに飾られています。



活動の報酬はビー玉です。さらに定期的にに行われる株主総会では、全員がよくがんばったと思う個人や会社へボーナスビー玉を渡します。こうして集めたビー玉は「給食おかわり横取り券」や「日直パス券」など様々なチケットに交換することができます。子どもたちの学びは授業と日々の学級活動との両輪で成り立っています。学級活動をより主体的に行うことで、授業での子どもたちの姿勢も変わってきます。子どもたちが将来「ふるさと鳥羽」のため、仲間とともに活動してくれることを、今日もビー玉を渡しながら願っています。

良きパートナーとして

鳥羽市運動施設の指定管理業務にあたって

三幸株式会社

本年4月より、鳥羽市運動施設の指定管理業務をしております三幸株式会社です。指定管理者としての目標、抱負等をお話しさせていただきます。

当社は、3つの幸せと書いて、三幸株式会社と言います。会社の経営理念でもある3つの幸せとは、「お客様の幸せ」、「働く人の幸せ」、「会社の幸せ」です。

クリーン事業、設備管理事業等、施設総合管理企業として活動し、指定管理業務としては、三重県内をはじめ、多くの地域で施設管理業務を受託しています。

鳥羽市運動施設の管理運営のコンセプトは、鳥羽市民のスポーツ・レクリエーション活動を支え、『生涯にわたる健康づくり』に貢献することです。利用者のための施設づくりを考え、施設からの情報発信を行い、お客様へ親切で丁寧なおもてなしの心で、皆様に喜んでいただけるサービスを提供していきたいと考えています。

ご存じの方も多いと思いますが、鳥羽市運動施設には、体育館、武道館、野球場、テニスコート、多目的グラウンド、相撲場、水泳プールの7施設があります。

体育館は、メインアリーナの改修工事が終わり、新しく生まれ変わりました。増築されたサブアリーナは、可動式観客席を備えており、当社独自の自主事業として、様々なスポーツ教室や文化イベント、生涯学習教室を開催しております。

是非、お気軽にご利用下さい。職員一同、笑顔でお待ちしております。最後に、施設の管理運営を通して、多くの方に利用していただき、喜んでいただくことで、利用者の方だけでなく、地域住民の方、鳥羽市全体が幸せになるための良きパートナーとして、共に歩んでいきたいと願っています。



ご意見ご要望をお寄せ下さい